

河内だより

㊦感謝 ㊦わかる喜び ㊦チームワークを育てよう

電話 651-1982 文責 校長 小田 哲也

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の分析の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	
国語	全体的な傾向や特徴など	
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均正答率を下回る。また、すべての領域で全国平均正答率を下回る。 ・「読むこと」「話すこと・聞くこと」については、大きな課題があり、朝学習や放課後ステップアップ等での継続した取組が必要である。 	
	よくできた問題	努力が必要な問題
	<ul style="list-style-type: none"> ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題の正答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が低い。
算数	全体的な傾向や特徴など	
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均正答率を下回る。また、すべての観点で全国平均正答率を下回る。 ・「知識・理解」はよいが、「技能」「数学的思考方」については、算数的活動を重視した学習を進めていく取組が必要である。 	
	よくできた問題	努力が必要な問題
	<ul style="list-style-type: none"> ・示された除法の式の意味を理解を問う問題の正答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の特徴や傾向を関連付けて、単位量あたりの増減を判断し、その理由を問う問題正答率が低い。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査の結果分析の概要

- ・学校へ行くことを楽しいと感じ、きまりを守って生活できている。
- ・自己肯定感が高まり、社会へ寄与をしたいと展望をもっている。しかし、すべての児童が将来の夢や目標をもって生活しているとまでは言えない。
- ・宿題や家庭での学習を計画を立てて行っている児童が少なく、学習時間は一部の児童を除き学校が示している時間以上である。
- ・多くの児童が、授業で学級の友達との間で話し合う活動をよく行ったと答えており、話し合うことの大切さを理解できている。また、話し合う活動で自分の考えを工夫して伝えたり、他者の考えを取り入れたりしようとしている。
- ・読書はすべての児童が好きであるが、授業以外の時間や家庭での読書時間が少なく、積極的に読書へ取り組んでいるとは言えない。
- ・国語科・算数科とも、学習に対して「好き」「大切である」「内容が分かる」と答える児童が多く、学習への意欲はやや高く、その意義を理解できている。しかし、苦手意識をもつ児童もいる。
- ・自分の地域のことについて、行事に参加したり、他者に伝えたいという肯定的な気持ちが高い。しかし、積極的に何かをしようという意識までには到っていない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ICT 機器を有効に活用して、自他の考えやノートを視覚化し、説明や考え方の交流ができるようにする。また、記述の仕方を共有し、自分の考えやまとめをノート記述できるよう指導していく。
- ・放課後、タクシーを待つ間に宿題に取り組み、わからないところを先生に聞いて、苦手問題の克服に努める取組を進めていく。
- ・家庭学習充実のために、宿題や課題の持ち方等の工夫や生活科や総合的な学習の時間、行事との関連付けをし、見通しをもって以後の学習に取り組むことができるようにしていく。
- ・地域や保護者と連携した2・3学期の様々な行事の中で、一人一人の評価を工夫し、児童の自己有用感を高めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・朝読や図書貸し出し、読書カード等を活用し積極的に読書に取り組めるようにする。また、引き続き北九州市や八幡東区の読書に関する施設の利用案内やパンフレットを紹介する等、PTA理事会での保護者への啓発を継続して取り組んでいく。
- ・外部と積極的に関わっていけるように、学校便り、保健便り等での啓発をこれからも継続して行う。
- ・規範意識育成学習への保護者の参加を呼びかけたり、これまで取り組んできた「携帯電話、スマートフォン夜10時オフ運動」を理事会等の場を活用して保護者に呼びかけたりし、家庭でのICT機器の有効活用を推進していく。